

## 全体的な進捗状況、計画の達成状況、 計画の達成状況に対する分析・評価及び今後の課題

平成15年4月から平成17年3月までのアクションプログラム機能強化計画期間における全体的な進捗状況については、下記の通り、ほぼ計画通り推移したと認識しています。

しかし、当金庫および取引先の規模的要因において、取組みが困難な項目もあり、検討段階に止まっている項目もあります。今後「集中」と「選択」の観点からもより踏み込んだ検討が必要であると考えております。

機能強化計画における「集中改善期間」の最終期間である平成16年度下半期においては、これまでの未実施の項目を中心に具体化させました。

### 記

#### 1. 中小企業金融の再生に向けた取組み

##### (1) 創業・新事業支援機能等の強化

中小企業支援センター他の外部機関との連携を深め、平成17年2月に「やまとベンチャー企業育成ファンド」の組成において、当金庫も出資を行い、新事業の発掘・育成の一翼を担うこととなりました。

さらに、機能強化期間中の2年間の累計で7先が、経営革新支援法の認定を受け、内5先に対して金融支援を取組みました。

この項目においては特に企業の将来性や技術力を的確に評価できる人材の育成に重きを置き、研修派遣や中小企業診断士育成等、自己啓発の奨励を行いました。

##### (2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

この項目を「機能強化計画」の中でも最も重要な課題と位置付け、平成15年7月に本部融資部内に「財務支援室」を設置し、要注意先を中心とした取引先の財務内容の改善指導を行い、債務者区分のランクアップを図っています。平成16年度は営業店との協力体制によるランクアップに努め、全店的レベルでの推進を行うことで、意識の高揚に努めてきました。

結果として、15年度および16年度の2年間において、65先の経営改善支援取組み選定先の内、累計で17先において債務者区分が上昇しました。

活動方針においては、単に短期間でのランクアップという成果のみを求めたもので

はなく、長期的視野における体制整備と意識改革を図る中で、企業の経営改善を図ることとしており、地道ながら継続的な活動を行っています。

今後も全体的なスキルとスピードアップを図り、特に経営改善支援先数の増加に注力し、成果を上げていく方針であります。

### (3) 早期事業再生に向けた積極的取り組み

デット・エクイティ・スワップ、DIPファイナンスや、RCC信託機能の活用等については、当金庫および取引先企業の規模的要因から、対象案件がなく、具体的な取組みには至らず、制度内容の把握と取組みに向けての検討段階に止まっています。

しかし、企業再生支援に関する人材の育成は必要であり、各種研修への派遣と再生支援スキームの検討委員会での検討は行っており、今後対象先事案があれば具体的な検討を進めることとしています。

### (4) 新しい中小企業金融への取組みの強化

この項目で求められていた“担保・保証に過度に依存しない融資商品の開発”においては、平成16年12月に無担保、第三者保証人不要で、スコアリング方式を取入れた「やましんビジネスローン 社長！どうですか」を発売し、好評を博しています。

この商品では、商工会議所や商工会等との連携を深めるべく、同会員への優遇措置も取入れています。

信用リスクデータベースの整備・充実においては、平成16年7月に信金中央金庫の「信用金庫業界の中小企業信用リスクデータベース」に参加し、現在還元データの検証と今後の活用方法の検討を行っています。

### (5) 顧客への説明体制の整備、相談、苦情処理機能の強化

この項目では特に、「与信取引に関する顧客説明態勢構築委員会」を発足させ、態勢整備を行い「規定」策定まで計画通り進みましたが、平成17年4月からの施行前の段階で、「個人情報保護法」、「民法の一部改正」等への対応が必要となり、一旦決定した書式・様式等に所要の見直しが必要となり若干遅れる結果となっております。

相談・苦情処理体制の強化については、「苦情処理規定」の制定や「苦情・トラブル事例集」のフィードバックを行うなど、強化が図れています。

### (6) 進捗状況の公表

ディスクロージャー誌・ミニディスクロージャー誌・中間期ディスクロージャー誌ならびにホームページ等において順次開示を行い、計画通り進捗しました。

公表においては進捗状況のみならず、金融再生法開示債権の保全状況、地域貢献に関する情報においても同様に行いました。

今後は、開示時期をより早めることを課題としています。

## 2. 各金融機関の健全性の確保、収益性の向上に向けた取組み

### (1) 資産査定、信用リスク管理の強化

自己査定の充実を図ることを取組方針としており、定量分析の精度向上、店長による2次査定の実施による意識とスキルの向上、事務の平準化等が図れました。

### (2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上

平成16年1月に正常先および要注意先における基準金利を設定し、設定金利との乖離先については金利引上げの個別折衝を行っていますが、現実的には困難な面も多く、全般的な収益力の向上に繋がるものとは言えません。

また、自己査定と信用格付区分の融合による債務者区分別の適用金利の導入までは至っておりません。

### (3) ガバナンスの強化

半期の情報開示は平成14年9月から計画通り実施しており、特に「2004 地域貢献・中間期ディスクロージャー」では、従来信用金庫では開示項目とされていない当期純利益等の収益状況も開示しました。

総代候補者の選考基準の明確化や総代会に関する事項を、平成16年8月発刊のディスクロージャー誌に掲載しました。

また、今後の地域貢献活動を、体系的・包括的に推進することを目的として、平成16年12月に「CSR検討委員会」を設置し、現在その活動を進めています。

### (4) 地域貢献に関する情報開示等

情報開示については、計画通り進捗できております。

しかし、地域貢献活動に対する評価のスキームが構築できていませんので、平成16年12月に設置した「CSR検討委員会」において、顧客の声を収集する計画であり、平成17年上半期にアンケート調査を実施する予定であります。

### (5) 法令等遵守(コンプライアンス)

金融機関の健全性の確保については、コンプライアンスが最も重要な課題であると認識しています。

当金庫では、監査部を事務局としてコンプライアンス委員会によりコンプライアンス事案の問題点及び未然防止策等の検討を行うとともに、理事長によるコンプライアンス臨店指導、役員によるコンプライアンス臨店研修を実施し、コンプライアンス意識の浸透を図っています。

### 3. 今後の課題

平成 15 年度から取り組んでいる新 3 力年計画「やましんチャレンジ 2 1」における重点課題として掲げている「中小企業の支援・育成」ならびに「地域活性化への対応強化」を推進するために、引き続き機能強化計画の各施策の充実を図ってまいります。

さらに、同じく新 3 力年計画に掲げている「業務改革プランの断行による収益力の強化」のために、地域社会の金融円滑化に資する融資の増強はもちろんのこと、多様化する顧客ニーズに適應した商品開発を行い、高付加価値サービスの提供によるフィージビネスにも目を向けたいと考えています。

そのためにも、引き続き「人材の育成と個々の専門能力の向上」ならびに「コンプライアンス・リスク管理態勢の強化」に取り組んでまいります。

当金庫は、今後の方針として、機能強化計画期間の進捗だけに止まることなく、平成 1 7 年度から 2 年間に亘って展開される「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」においても、信用金庫の本来の使命であるとの認識の下に、継続的に中小企業と地域経済発展のために様々な活動を続けていくこととしております。

なお、平成 1 7 年度の当金庫における経営方針を以下の通り定めています。

収益力の向上と統合リスク管理体制の整備・充実による経営力の強化

イ 貸出金の増強

ロ 貸出金利のプライシングの徹底

ハ 財務支援活動によるランクアップの推進、ランクダウンの防止

ニ 経費の削減

ホ 信用リスク、市場リスク等の統合リスク管理体制の整備と充実

顧客ニーズを重視した金融サービスの提供と顧客保護ルールの徹底

イ 投資信託（平成 1 7 年 1 0 月取扱開始）と個人年金保険を柱としたフィージビネスへの展開

ロ 顧客説明態勢の徹底

ハ 個人情報保護等情報管理体制の確立

以 上